

令和7年度 普及活動成果集



福岡県筑後農林事務所
八女普及指導センター

令和8年3月

目 次

	ページ
○ はじめに	
1 普及活動成果	
(1) 八女地域をリードする意欲ある中核農家の発展支援	1
(2) 中山間地域の担い手の経営強化	3
(3) 八女の産地を支える経営体の育成	5
(4) 水稲・麦類・大豆新品種の生産技術確立	6
(5) イチゴにおけるスマート農業技術による増収と新規生産者育成	7
(6) 主要切り花の産地育成と花き農家の経営力向上	8
(7) 八女の果樹産地を支える若い担い手と新規参入者の育成	9
(8) 八女地域の5茶法人が ASIAGAP の団体認証取得	10
2 トピックス	11
3 八女地域農業の概要	15
4 普及活動推進体制	16
5 令和7年の気象と各作物の生産概況	17
6 令和7年度 表彰事業実績	21
7 令和7年度 実証ほ一覧	22
8 令和7年度 現地活動情報	23

(表紙の写真説明)

- 上段左 経営研修会を受講するフォローアップセミナー受講生
- 上段右 青年農業者交流会で意見交換を行う4Hクラブ員
- 中段左 中山間地域の農地マッチングに向けての現地調査
- 中段中央 有機茶栽培指導に向けた土壌調査
- 中段右 水稲栽培技術情報発信に向けた生育調査
- 下段左 早みかんの裂果対策試験の調査
- 下段中央 圃場におけるいちごの生育調査
- 下段右 ガーベラ技術講習会での指導の様子

はじめに

八女普及指導センター管内は、県農業産出額の約20%を占める県内屈指の農業地帯であり、西部の平坦地から東部の山間地まで、多様な農業が展開されています。

特に県ブランド農産物のイチゴ「あまおう」をはじめ、ミカン、ブドウ、キウイフルーツなどの果樹生産も盛んで、「福岡の八女茶」や「電照菊」でも有名な産地です。

県では、福岡県農林水産業・農山漁村振興条例に基づき、令和4年3月に策定した福岡県農林水産振興基本計画において「稼げる農林水産業の実現、食と暮らしを支える農山漁村づくり」を目標に、各種の施策を展開しています。

当普及指導センターでは、この計画に則し、2つのプロジェクト課題と18の係課題からなる普及指導計画を策定し、市町、JAをはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー等と連携して普及活動に取り組んでいます。

近年、異常気象による被害、資材価格の高騰及び農家の高齢化による農業経営体の減少など、農業を取り巻く環境には非常に厳しいものがあります。

今年度は大雨や台風等による被害は少なかったものの、早い梅雨明け以降の高温などが農作物の収量や品質に大きな影響を及ぼしました。

高温対策は当センター全体で取り組んでおりますが、今後も引き続き技術の組み立てと普及指導を図る必要があると考えております。

この冊子は、産地と農業者の方々が抱える課題の解決に取り組み、令和7年度に一定の成果があった内容を取りまとめたものです。

これらの活動の成果は、すべて農業者の皆様、市町、JAなど関係機関との連携によって成し得たものです。ここに改めてお礼を申し上げます。

当センターは、農業者の「稼げる農業」実現のため、先端技術や新品種の普及、担い手の育成、地域振興を柱に職員一丸となって取り組んで参ります。

引き続き普及活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和8年3月

福岡県筑後農林事務所八女普及指導センター長

前田 陽一

1 普及活動成果

(1) 八女地域をリードする意欲ある中核農家の発展支援

【要約】

八女地域では農家の高齢化等により今後の産地縮小が懸念されている。その対策として経営発展を実現する農家の育成や、若い農家に対する経営発展意識の醸成を行った。

経営計画を作成している経営改善意欲の高い農家の中から6戸を選定し、経営や情勢の変化に合わせた経営計画の改訂を行い、計画実現までの道筋をより具体化した。また、関係機関と連携した伴走支援に加え、対象となる6戸と専門家を交えた情報交換会を設ける等、相互刺激による取組み強化と加速化を図っている。

経営発展を志向する若い農家2戸を選定し、先輩農家への視察や個別支援により経営計画の作成まで支援した。また、先進事例農家や専門家を招いたセミナーの実施により、経営発展を志向する農家の掘起しを行った。

【目的】

八女地域では農家の高齢化等による産地縮小が懸念されており、雇用を活用した大規模経営は少ない。そこで、既存農家の大規模化に向け、経営改善意欲が高い農家への個別重点支援による確実な経営発展を促す。その結果、経営発展を実現する農家の輩出による波及効果を図り、管内農家の経営発展意識の醸成と産地の維持、発展を目指す。

1 活動対象の概況

- ・経営計画を作成した農家54戸（野菜21戸、花き14戸、果樹15戸、茶4戸）
- ・JAふくおか八女各部会青年部等（下表）

	仔ゴ	トマト	大豆	キウイ	プリンスラム	ガーベラ	カンキツ	ブドウ	ササ	茶
農家戸数	100	24	34	27	17	5	19	34	17	44

2 活動の内容等

(1) 意欲ある中核農家の発展支援

経営発展を実現する農家の育成に向け、八女地域農業振興推進協議会と活動内容について協議し、関係機関と連携した取り組みとなるよう体制整備をした。また、令和6年度までに経営計画を作成した54戸の中から6戸を選定し、経営改善意欲の高い農家として個別重点支援を行う合意を得た。

6戸が策定していた経営計画は経営や情勢の変化により現状との乖離があったため、経営目標や実現に向けた行動計画の改訂を行った。併せて、必要な設備投資や労力、単年改善計画も策定し、計画の実現に向けた道筋をより具体化した。

また、相互刺激による取組み強化と



写真1 情報交換会の様子

加速化を図るため、6戸と関係機関による情報交換会を実施した（写真1）。情報交換会では公認会計士同席のもと、改訂した経営計画に関する検討を行い、公認会計士より内容に関する助言をいただいた。普段は接点がない他品目を栽培する農家との検討は新たな気づきを得る場となり、経営計画の実現に向けた意欲の向上に繋がった。

経営計画の実現に向け、関係機関と連携した伴走支援として、単年改善計画の実施に向け技術と経営の両面からの支援を実施し、経営状況に合わせた分析や提案を行っている。支援状況を八女地域農業振興推進協議会にて共有することで、関係機関と連携した支援を実現している。

（2）経営発展意識の醸成

経営発展意識を持つ農家を育成するため、八女地域農業振興推進協議会にて対象者を2戸選定した。

2戸に対し中長期の計画を記載した経営計画の重要性や作成方法を説明し、作成まで伴走支援を行った。また、作成にあたり経営計画を作成し活用している先輩農家へ視察を実施し、自身の経営を考える機会を設けた。作成した経営計画は管内農家の前で発表する場を設け、計画の意識付けと内容のブラッシュアップを予定している。

さらに、経営発展意識を持つ農家を多く育成するため、先進事例農家や専門家を招いたセミナーを開催した。経営発展の取り組み事例や経営管理手法について学ぶことで、経営発展意識を持つ農家の育成と掘起しを行った（写真2）。



写真2 先進事例農家を招いたセミナー

3 活動の成果

（1）意欲ある中核農家の発展支援

6戸が経営計画の改定を行い、目標や行動等を具体化した。計画に記載した単年改善計画や目標の実現に向け、関係機関と伴走支援を行っている。

（2）経営発展意識の醸成

2戸が経営計画を作成し、経営発展意識を持つ農家を育成した。また、セミナー等での掘起しにより、経営発展意識を持つ農家の把握ができた。

4 今後の見通し又は課題

経営計画の実現に向け、関係機関と連携した支援を行っていく。また、経営発展を実現する農家として選定した6戸を始めとした管内農家の横の関係構築を促進し、経営発展の地域への波及と、産地の維持、発展に向けた支援を行う。

(2) 中山間地域の担い手の経営強化

【要 約】

(1) 担い手の経営力強化支援

八女市の中山間地域の50名の農業者を対象に、経営指標(経営体所得400~450万円)の達成に向けた進捗管理等の支援を行い、うち8名に対して経営改善実践計画の策定を支援した。

(2) 農地集約と担い手のマッチング支援

黒木町椿原地区では、意向調査に基づき、地区外の担い手候補者とのマッチングに向けての取組を始めた。

黒木町串毛、下松尾萬野々の2地区では、利用価値が見込まれる農地をまとめて再整備する将来計画の樹立を目指し、地権者との意見交換会等を行い、早期実施の要望に応じて、意向調査まで取組を進めた。

【目 的】

(1) 認定農業者の認定審査では、経営指標の未達者は「進捗確認を条件」としているが、進捗管理等の体系的な指導態勢が十分出来ていなかった。そこで、経営計画達成のため、未達成の要因の聞き取りや達成のための具体的な取り組みを支援することで、経営指標達成を目指した。

(2) 荒廃が進む遊休農地がある地区内では、農地集約の話合いの動機が乏しい状況にあった。地区外には果樹で規模拡大を志向する担い手がいるが、現状では求める条件に合わず、農地の活用を望めなかった。このため、農地所有者の意向をまとめ、担い手が利用しやすい農地に再整備する将来計画の樹立を目指した。

1 活動対象の概況

○対象地域：八女市中山間地域（黒木、上陽、矢部、星野、立花）

○対象者：

(1) R5～R6八女市認定農業者50名

(2) 黒木町串毛地区農業者

黒木町椿原峯尾地区、下松尾萬野々地区農業者



写真1 合同研修会

2 活動の内容等

(1) 経営改善の実践計画の策定

①認定農業者50名に対し面談による経営実態の把握を行った。

②上記農業者50名のうち、8名に対し実践計画の策定支援を行い、経営改善の継続支援を行った。

(2) 農地活用の合意醸成とマッチング支援

①遊休農地等の将来活用方針の合意醸成（黒木町串毛地区）

(3) 八女の産地を支える経営体の育成

【目的】

八女地域の産地維持のため、関係機関と連携し新規就農者の経営確立と認定農業者の確保、育成を行う。また、研修会等により女性の経営参画を促進する。

1 活動対象の概況

- ・経営開始4年目以上の認定新規就農者 27名
- ・認定農業者 990戸（女性農業者 44名、共同申請 75戸）
- ・意欲ある女性農業者 40名

2 活動の内容等

(1) 認定新規就農者の経営確立

認定新規就農者に対し関係機関と連携した面談や現地巡回、農業経営に関する研修会の開催など、早期の経営確立と認定農業者への誘導を行った（写真1）。

(2) 認定農業者・共同申請者の確保と育成

経営改善計画の作成支援や女性農業者向けの研修会の実施など、認定農業者確保と女性農業者の経営参画を支援した。また、関係機関向けの研修会や視察を実施し、農業者に対する支援体制強化を図った（写真2）。

3 活動の成果

(1) 認定新規就農者の経営確立

14戸が認定新規就農者から認定農業者となり、将来を担う経営体の確保と育成に繋がった（野菜9戸、果樹5戸）。

(2) 認定農業者・共同申請者の確保と育成

研修会等の実施による女性農業者と関係機関への働きかけにより、認定農業者 989戸の内、共同申請等で経営参画する女性農業者は 74名（+12）となった。



写真1 経営研修会の様子



写真2 関係機関向けの視察研修

4 今後の課題

新規就農者の早期経営確立と認定農業者の確保、育成に向け、関係機関と連携した支援を継続する。また、研修会や視察を実施し、農業者のスキル向上と関係機関の支援体制強化を図る。

(4) 水稲・麦類・大豆新品種の生産技術確立

【目的】

中山間地向け水稲新品種「恵つくし」、硬質小麦新品種「ちくし春香（はるか）」、大豆新品種「ちくしB5号（ふくよかまる）」の管内に適した栽培体系を確立するとともに、栽培技術情報等を通じて、収量および品質の向上を図る。

1 活動対象の概況（令和6年産）

「恵つくし」作付面積：75ha、硬質小麦作付面積：245ha、大豆作付面積：569ha

2 活動の内容等

(1) 「恵つくし」の作付面積拡大

一般栽培3年目となり、成熟期の異なる品種からの転換も行われていることから、水管理や病害虫防除等の細やかな情報提供を行った。

(2) 「ちくし春香」の特性把握

「ちくし春香」の品種特性を把握するための展示ほを設置し、従来品種との違い等の把握に努めた（写真1）。

(3) 「ちくしB5号（ふくよかまる）」の特性を活かした栽培の推進

早播き特性を活かした7月1日からの播種開始を講習会等で推進した（写真2）。



写真1 「ちくし春香」展示ほ



写真2 ちくしB5号（ふくよかまる）栽培講習会

3 活動の成果

(1) 「恵つくし」の作付面積拡大

令和7年産恵つくしの作付面積は約84haに拡大した。

(2) 「ちくし春香」への品種転換の実施

令和8年産よりJAふくおか八女の硬質小麦作付品種が「ちくし春香」へ全面転換することとなり、令和8年産作付予定面積は約207ha。

(3) 「ちくしB5号（ふくよかまる）」の特性を活かした栽培の推進

播種は7月15日までにほぼ完了。その後の乾燥やカメムシ類の被害等により、収量は昨年並みの見込み。

4 今後の課題

引き続き、優良新品種の栽培特性等の把握を実施し、現地での普及に努める。

(5) イチゴにおけるスマート農業技術による増収と新規生産者育成

【目的】

イチゴ産地維持のため、スマート農業による増収技術の確立と新規就農者の早期経営安定を支援する。

1 活動対象の概況

- ・イチゴ ICT 研究会員 25 名
- ・イチゴ新規就農者のうち重点指導対象（就農 3～4 年目） 15 名

2 活動の内容等

(1) 生産数量の向上

ICT 研究会員を対象とした研修会を実施し、環境制御に係る知識の向上を図った。また、増収技術対策のための展示ほを設置し、環境制御による増収を検証した（写真1）。

(2) 新規生産者育成

重点指導対象者を対象とした個別巡回を行い、栽培面のフォローアップを行った。また、新規就農者を対象としたセミナーを開催し、栽培管理に関する基礎知識の習得を図った（写真2）。

3 活動の成果

(1) 生産数量の向上

ICT 研究会員のうち、9 戸が3年前に比べ収量が4～41%向上した。

(2) 新規生産者育成

重点指導対象者のうち、7 戸が地区の平均収量を上回った(+0.3～29.6 パック/坪)。



写真1 展示ほの設置



写真2 新規者向け研修会の様子

4 今後の課題

近年、夏季の高温等の影響によりイチゴの栽培環境が厳しくなっていることから、環境に対応した技術対策の確立を図る。また、今後も新規生産者の参入が見込まれることから、新規生産者を対象とした支援を継続する。

(6) 主要切り花の産地育成と花き農家の経営力向上

【目的】

管内の花き産地は、高齢化や資材高騰等による収益性の悪化により、縮小が危惧されている。そこで、主要な切り花品目であるガーベラおよび洋ラン農家の経営力向上による産地の維持、育成を図る。

1 活動対象の概況

- ・ J Aふくおか八女花き部会ガーベラ部 13 戸、洋ラン部会 11 戸

2 活動の内容等

(1) ガーベラの産地育成

技術講習会において、増収対策として、土壌還元消毒の徹底、適切な温度およびかん水管理、適期防除を指導した。

(2) 洋ランの産地育成

個別巡回や部会講習会時に親株更新を推進した。また、展示ほを設置し、電照処理による品質および収量向上の効果を検討した。

3 活動の成果

(1) ガーベラの産地育成

土壌還元消毒により、株枯病の発生を減少させることができた。また、栽培管理（写真1）の徹底により、10aあたり出荷本数が238千本と、昨年よりも5%増加した。

(2) 洋ランの産地育成

個別巡回指導や講習会時の親株更新の推進により、部会全体の親株更新割合は累計で38%となり、前年と比較して、15ポイント増加した（図1）。また、電照処理により、秀品率が向上した。



写真1 ガーベラ技術巡回指導の様子

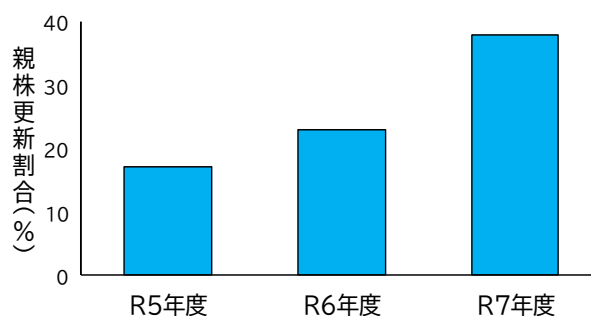


図1 洋ラン親株更新割合の推移
注)5年以内に更新した株

4 今後の課題

ガーベラでは、今後も巡回指導等で基本技術を励行する。洋ランでは、引き続き親株更新を推進していくとともに、効率的な電照技術を検討していく。

(7) 八女の果樹産地を支える若い担い手と新規参入者の育成

【目的】

管内は県内有数の果樹産地であるが、生産者数の減少と高齢化が課題となっている。そこで、果樹産地を支える担い手の育成を目的に、JAふくおか八女果樹部会の青年部員の技術・経営面の改善を図る。また、就農5年目未満の新規参入者の定着を目指して、技術と経営の支援を行う。

1 活動対象の概況

- ・JAふくおか八女
 - かんきつ部会青年部 19名
 - ぶどう部会青年部 34名
 - なし部会青年部 17名
 - キウイフルーツ部会青年部 20名
- ・新規参入者（5年未満） 9名

2 活動の内容等

(1) 若い担い手の育成

品目別に青年部全体で取り組む共通課題を設定し、課題解決のための展示ほを設置した。また、各青年部員に技術・経営課題の聞き取りを行い、個別課題の設定と、課題解決のための支援を行った（写真1）。



(2) 新規参入者の育成

巡回指導を行い、個人ごとに課題を設定し、定着のための技術・経営支援を行った。

写真1 青年部研修会

3 活動の成果

(1) 若い担い手の育成

展示ほを5ヶ所設置し、調査結果を青年部と共有した。15名の青年部員が個別課題を設定し、課題解決に取り組んだ。

(2) 新規参入者の育成

巡回指導による技術・経営支援を行ったことにより、9名全員が営農を継続した。

4 今後の課題

個別課題を設定した青年部員については、課題解決のための支援をする。また、新規参入者の定着に向けた支援を継続して進める。

(8) 八女地域の5茶法人が ASIAGAP の団体認証取得

【目的】

近年、抹茶をはじめとする日本茶の世界的な需要拡大と輸出量増加に伴い、GAP 認証茶への関心が高まっている。しかし八女地域では、GAP 認証取得にかかる書類作成の事務負担や、申請費用などの経費がネックとなり、新規の認証取得は伸び悩んでいた。

そこで、新規認証取得を目指す2法人を含む5法人で「八女地域 GAP 研究会」を設立し、ASIAGAP の団体認証取得に向けた支援を行った。

1 活動対象の概況

- ・八女地域 GAP 研究会 5法人

2 活動の内容等

研究会に参加する5法人と関係機関で定期的な会議（写真1）を開催し、情報共有や意見交換を実施した。これにより、団体マニュアルに則したルールや GAP 認証に必要なノウハウを共有し、認証取得に至るまでの各法人のモチベーション維持を図った。

各法人の GAP 適合支援は新規取得を目指す2法人を中心に、茶園、倉庫、茶工場における資料作成支援や現地指導（写真2）を実施した。

なお認証取得にあたり、県単補助事業の活用支援も行った。

3 活動の成果

新規取得2法人の 38ha を加え、5法人の合計 109ha という県内最大規模の ASIAGAP 団体認証を取得することができた。



写真1 研究会会議の様子



写真2 現地指導の様子

4 今後の課題

「八女地域 GAP 研究会」の継続的な認証更新と、高まる輸出ニーズに対応するため、新たに GAP 認証取得を希望する経営体がスムーズに加入できる体制の確立が必要である。また、令和10年に ASIAGAP が廃止予定のため、実需者が求める他の認証制度へ円滑に移行できるよう、準備を進めていく。

2 トピックス

(1) 古川明俊氏が黄綬褒章を受章

令和7年秋の褒章において、八女市の株式会社古川農園社長の古川明俊氏が黄綬褒章を受章されました（写真1）。

黄綬褒章は、農業、商業、工業等の業務に精励し、他の模範となるような技術や実績を有する方に天皇陛下から親授される栄誉ある章です。

古川氏は、直販や喫茶室を併設した多角化経営の法人組織設立および碾茶生産の導入など、県内茶生産者の先駆けとして今日の産地発展に大きく貢献されました。

その他、JAふくおか八女理事や茶業部会長などを歴任され、後継者育成や地域活性化の牽引役として長年にわたりご尽力されています。

これまでの多大な功績に深く敬意を表しますとともに、今後益々のご活躍と地域農業の発展を心よりお祈り申し上げます。



写真1 古川氏ご夫妻(左が明俊氏)

(2) 實本太氏が緑白綬有功章を受章

令和7年度農事功績者表彰式において、筑後市の實本太氏が緑白綬有功章を受章されました（写真1）。

この受章は、農業改良に顕著な功績を挙げ、地域農業の発展に貢献している農業者に対し、秋篠宮皇嗣殿下より親授されるものです。

實本氏は、肉用牛・水稻・麦作の複合経営で、福岡県指導農業士会会長や市農業委員会会長、JA理事などを歴任し、後継者の育成や地域活性化のけん引役として長年に渡り尽力されています。また、黒毛和牛×ジャージー種からなる交雑牛を自家ブランド牛「船小屋牛」として生産し、酒粕やおからなど地域未利用資源を活用した配合飼料や稲わらを給与することで、肉質向上を実現しています。

積み重ねられた功績に深く敬意を表しますとともに、今後も地域農業の発展に益々のご活躍を祈念いたします。



写真1 徳田農林水産部長(左)と實本太氏

(3)「農事組合法人 いまでら」が農林水産省農産局長賞を受賞

第53回全国豆類経営改善共励会の「大豆集団の部」において、筑後市の「農事組合法人 いまでら」が「農林水産省農産局長賞」を受賞されました（写真1）。

「農事組合法人 いまでら」は、種子用大豆の生産が経営の中心で、優良種子の安定生産に向け、きめ細かい栽培管理に取り組んでいます。また、集落内全ての農地集積や、地域住民全戸と地元にあるプロ野球選手寮への新米贈呈などの地域貢献の取組が評価され、今回の受賞となりました。

受賞後に中村代表理事より、「このような名誉ある賞をいただけて嬉しい。一斉播種や手取り除草による高品質で高収量の種子生産を行ってきたことや、地域貢献の取組が評価された結果だと思う。引き続き種子の安定生産に努めていきたい。」との喜びの言葉が寄せられました。



写真1 受賞する中村代表(右)と北島理事(左)

(4) 新規就農支援センター 10th Anniversary

管内では、毎年30人程度の方が新規に就農しています。就農希望者がスムーズに就農できるよう、八女普及指導センターと市町、JAふくおか八女は共同で、新規就農支援対策会議を平成25年に設立し（図1）、新規就農者受け入れシステムを構築し、就農相談のワンストップ化を図っています。

なかでも平成27年からは、JAふくおか八女就農支援センターを核として、栽培技術・経営技術の研修内容の充実に取り組み、10周年の令和7年までに、就農支援センター卒業生としてイチゴ38人、トマト7人、ナス5人の新規就農者を輩出しました。就農後も関係機関で連携した手厚いサポートを実施し、8人が部会等役員に就任。また、認定新規就農者を満了した25人のうち15人が認定農業者に認定されました。

今後も、関係機関が連携し、担い手の確保と育成に取り組めます。

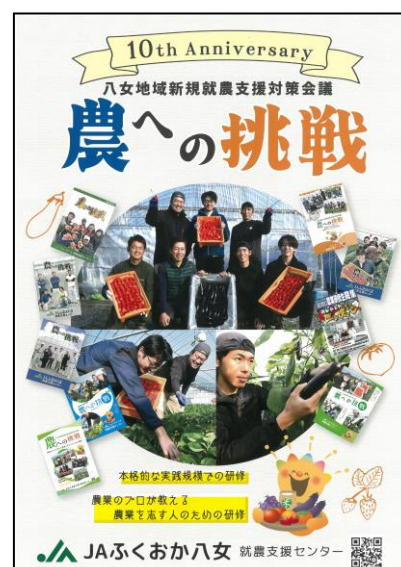


図1 就農支援センターを紹介するチラシ

(5) キルパー灌水処理によるナスフザリウム立枯病対策の検討

近年、八女普及センター管内の冬春ナス生産ほ場において、茎枯性病害であるナスフザリウム立枯病の発生が徐々に拡大しています。当病害は、栽培終了後にキルパー灌水処理による土壌消毒を行うことで、罹病残渣中の菌密度を大幅に低減できることが知られています。そこで、八女普及指導センターでは関係機関及びメーカーと連携して、ナスの栽培終了後にキルパー灌水処理を行い、フザリウム立枯病の防除効果を調査しています。

調査の結果、ナスフザリウム病感染株の地際部に現れる孢子（写真1）について、キルパー処理前と処理後で発芽試験を行ったところ、処理前の孢子発芽率が71%だったのに対して、処理後の孢子発芽率は0%と菌密度の低減効果が高いことがわかりました。また、9月の定植後、定期的に発病調査を行っていますが、年内の発生は認められておりません。

今後も発病調査を継続して行い、キルパーを用いた防除体系を検討していきます。



写真1 ナス地際部に発生した小斑点(子のう殻)

(6) キク栽培における遮光資材を用いた夏季高温対策の実証

管内の電照菊栽培では、地温の上昇による立ち枯れや花芽分化時の高温による奇形花が多発し、夏秋期の出荷量が減少しています。対策として遮光剤の散布や内張カーテンによる遮光が行われていますが、立ち枯れや奇形花の発生を十分に抑えることができていませんでした。

そこで、普及指導センター、JA、部会と共同で遮熱効果のある遮光資材をハウスの上部に被覆し、高温対策効果を検討しました（写真1）。

その結果、対照区（遮光剤 40%遮光）に比べて最大で気温で 6.4℃、地温で 2℃低下し、奇形花率、立枯れ率ともに大きく減少しました（図1）。この結果を部会に報告し、高温対策を進めていくとともに、より効率的な高温対策も検討していきます。



写真1 被覆の様子

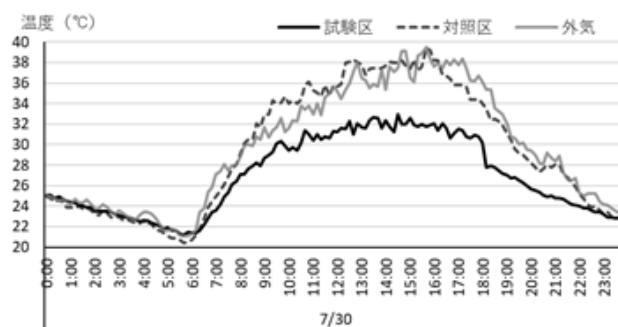


図1 温度の推移(7/30)

(7) 黄色 LED 防蛾灯によるかんきつのヤガ類防除

八女管内は県内有数のかんきつ産地ですが、近年、ヤガ類による果実への加害が増加しています。ヤガ類は、収穫期直前にかんきつ園に飛来し、果実に口吻を刺して果汁を吸います(写真1)。果実は、刺し傷から雑菌が侵入して腐敗、落果するため、生産量が大きく減少します。果樹園外で発生して、夜間に飛来するため、薬剤防除の効果が得られにくく、防除対策が確立していません。

そこで、普及指導センターでは、JAふくおか八女かんきつ部会と共同で黄色 LED 防蛾灯によるヤガ類の被害軽減について、3カ所のかんきつ園で試験を行いました(写真2)。最も効果の得られた園地では、対照区の被害果率が26.3%であったのに対して、防蛾灯設置区では被害果率を1.0%に抑えられました。設置個所によって効果変動するおそれがあることから、今後は効果的な設置方法とコストについて、かんきつ部会と協議を重ねて、ヤガ類の被害軽減技術の確立に取り組めます。



写真1 ヤガ類の被害を受けたかんきつ



写真2 夜間に点灯した黄色 LED 防蛾灯

3 八女地域農業の概要

- ・立地条件は、星野川、矢部川の流れに沿って東部から山間地、山麓地、丘陵台地、平坦地に区分され、耕地は標高5mから700mに存在する。
- ・令和6年の耕地面積は、8,859ha（田4,362ha、畑4,498ha）で、平成26年より8.3%（田3.2%、畑12.8%）減少し、年々減少傾向にある。特に畑面積の減少が大きい。管内耕地の特徴は、畑作（茶園、樹園地含む）を中心とした園芸農業が盛んなことである。
- ・令和2年の総農家数は4,844戸（うち販売農家数3,171戸、65%）で、平成27年より23.3%減少した。
- ・令和7年3月末の認定農業者数は989経営体（前年990経営体）でほぼ横ばいで推移している。令和6年の新規就農者数は40人で、内訳はUターン17人、新規参入20人、新規学卒3人となっている。
- ・令和5年度の農業産出額は、388億円と前年（379億円）を2%上回った。なお、内訳は普通作25.2億円、野菜120.9億円、花き46.9億円、果樹90.8億円、特産（茶）22.4億円、畜産58.6億円、その他作物6.4億円となっている（資料：農林水産省）。

（1）耕地の概況（資料：第61次・第71次九州農林水産統計年報）

耕地面積 (ha)	年	八女市	筑後市	広川町	合計	令和6/ 平成26
		平成26	6,830	2,018	817	9,665
	令和6	6,280	1,910	669	8,859	
うち田	平成26	2,490	1,620	397	4,507	96.8%
	令和6	2,420	1,570	372	4,362	
うち畑	平成26	4,340	398	420	5,158	87.2%
	令和6	3,860	341	297	4,498	

注) ラウンドの関係により合計が一致しない場合がある。

（2）農家の動向（資料：2015年・2020年農林業センサス）

項目	年	八女市	筑後市	広川町	管内計	令和2/ 平成27
総農家数 (戸)	平成27	4,796	889	634	6,319	76.7%
	令和2	3,614	732	498	4,844	
うち販売農家数	平成27	3,144	560	460	4,164	76.2%
	令和2	2,340	473	358	3,171	

4 普及活動推進体制

(1) 課・係体制と活動内容

※ () は係員数 令和7年4月1日現在

センター 長	地域 振興課	地域係 (5) (うち庶務1)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者等の確保・育成 ・認定新規就農者の経営確立 ・認定農業者等産地を支える担い手の経営改善支援と共同経営者の育成 ・青年農業者の育成
		水田 農業係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・水田農業を担う法人等の経営強化の支援 ・水稲・麦・大豆新品種の生産技術確立を支援 ・水稲種子の安定生産と品質向上を支援
	野菜 花き課	野菜係 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴ、トマト、ナスはスマート農業技術を活用した生産技術改善による収量向上を推進 ・イチゴ、トマト、ナスにおける新規栽培者の早期技術習得を支援 ・夏秋野菜は、高温対策および病害虫対策により収量向上、品質向上を支援 ・野菜産地強化計画の実践を支援
		花き係 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・キクは生産性向上と産地を担う持続的経営体の育成 ・ガーベラ、洋ランは産地維持のための担い手育成と中堅生産者の経営力強化を支援 ・花き産地強化計画の実践を支援
	果樹 特産課	果樹係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹産地構造改革計画に沿った優良品種への改植と生産拡大による産地振興を支援 ・果樹産地振興のため新品種等導入と品質向上を支援 ・果樹産地を支える若い担い手と新規参入者の育成
		特産係 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・長期経営計画策定や輸出対応茶生産、有機栽培茶、新品種改植等の推進による茶生産法人の経営体質改善、強化 ・需要の高い安全な GAP 等の認証を取得した茶の増産に向け、認証の取得を推進 ・高単価な八女伝統本玉露の生産維持に向け、優良園地の担い手へのマッチングを支援

(2) 重点課題プロジェクト班の課題及び活動内容

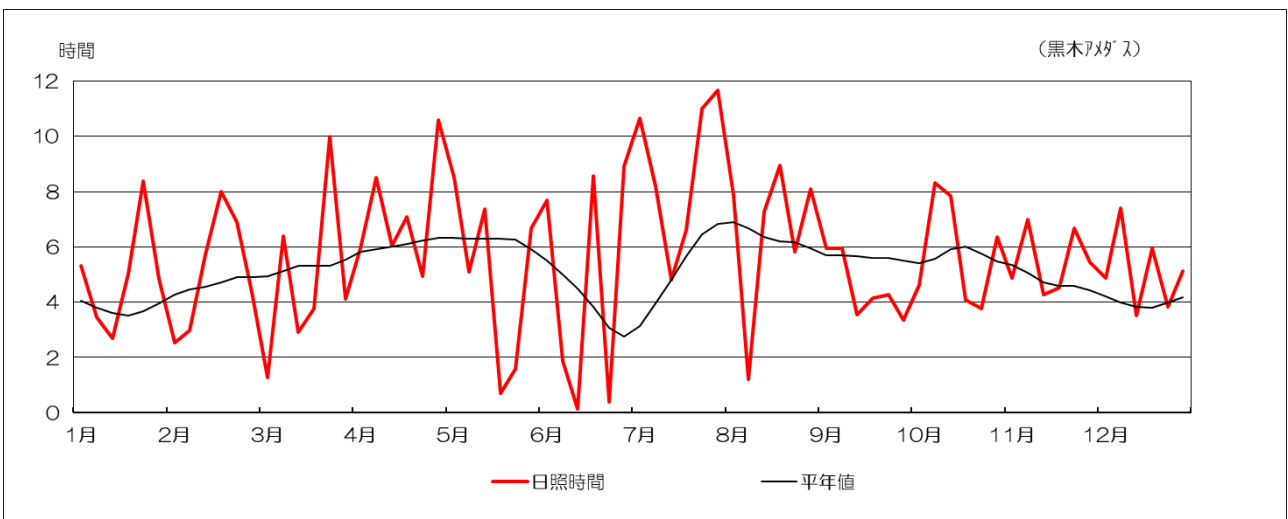
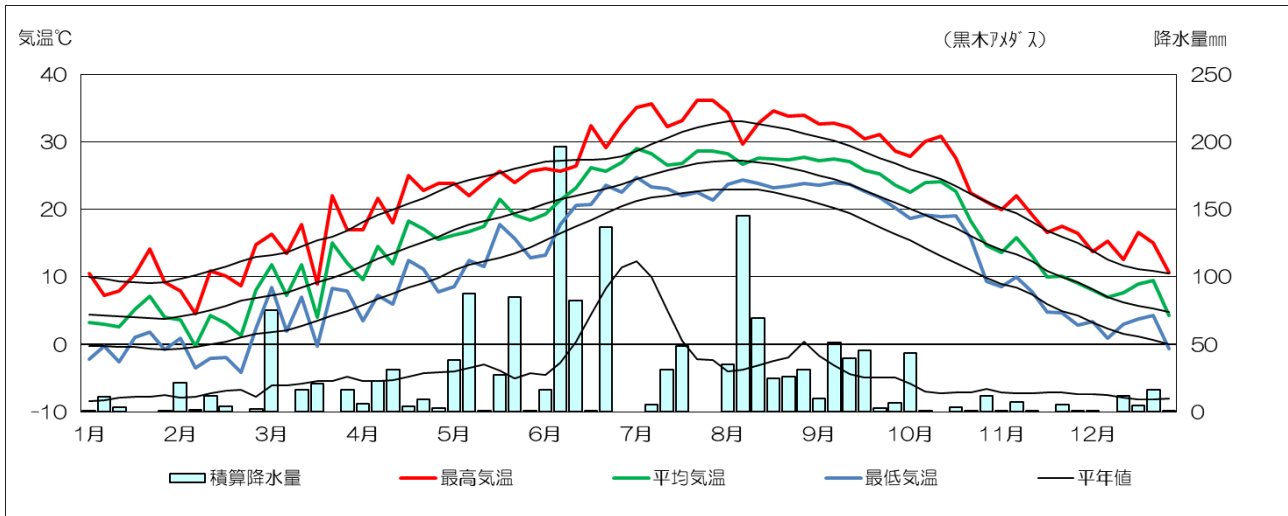
課題名	主な活動内容
八女地域をリードする意欲ある中核農家の発展支援 R7~R10	産地の維持・発展と個別経営体の経営力向上を目的として、地域の中核となる企業的経営体を育成する。そのために、経営改善意欲が高い中核農家に対する個別支援に重点を置き、確実な経営発展を促す。その結果、経営発展を実現する農家が複数戸現れる波及効果により産地の維持と発展を図る。
中山間地域の担い手の経営強化 R7~R9	積極的に経営改善に取り組む中山間地の農業者に対し、経営指標（経営体所得）の達成に向けた実践計画の策定を支援し、技術巡回指導や相談会の実施で指標達成を支援する。 また、将来の利用価値が見込まれる農地をまとまった状態で整備し、果樹等の担い手に活用を促す。

(3) 推進班体制の所内運営事項

班名	所内運営事項
青年農業者育成推進班	<ul style="list-style-type: none"> ・4Hクラブ活動への支援 ・青年農業者の育成
情報推進班	<ul style="list-style-type: none"> ・普及活動に関する情報提供の検討 ・普及活動成果集の編集
経営体育成推進班	<ul style="list-style-type: none"> ・経営体育成全般に係る業務の検討推進 ・雇用型経営体の育成検討
環境保全及び食の安全推進班	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬の適正使用の推進 ・GAPの推進、食の安全・安心推進 ・持続的農業の検討、推進 ・ふくおかエコ農産物認証制度の推進・支援

5 令和7年の気象と各作物の生産概況

(1) 気象概要



【特記事項】 () 内は平年値

年平均気温：16.3℃ (15.4℃)、年間降水量：1615.5 mm (2058 mm)

年間日照時間：2065 時間 (1877 時間)

梅雨入り：5月16日 (6月4日)、梅雨明け：6月27日 (7月19日)

梅雨期降水量 546 mm (789.8 mm)

(2) 令和7年度農業気象災害（八女地域）

本年度は、大雨、台風等による大規模な災害なし。

(3) 各作物の生産概況

【普通作】

<p>水稲</p>	<p>田植えは6月10～25日を中心に実施された。田植え後の活着は順調であったが、梅雨明けが早く、高温多日照が続いたため、藻類の発生が多く見られ、一部ほ場ではガス害が発生した。また、多くのほ場でスクミリングガイによる食害が確認された。梅雨明け以降は高温少雨で推移し、好天に恵まれたことから中干しは順調に行われ、穂数は平年並みからやや多い状況となった。9月上旬の風雨の影響により、生育の旺盛な夢つくしや元気つくしのほ場を中心に、なびきや倒伏が発生した。すべての品種で紋枯病の発生が確認され、一部垂直進展が見られた。カメムシ類の発生は多く、特にヒヨクモチをはじめとする晩生品種で被害粒が多く見られた。登熟期間の高温による影響で高温障害が多く見られた。</p>
<p>麦</p>	<p>前作の大豆の収穫が長期間に及んだ影響で、播種作業に遅れが生じた。11月下旬以降は降水量が少なく、12月播種の一部ほ場では乾燥と低温により出芽が遅れ、ほ場間の生育差が拡大した。また、1～2月は低温・少雨で推移し、中間管理作業を十分に行えたことから、茎数は平年より多くなった。3月上旬の茎立期以降に降霜があり、一部のほ場で幼穂凍死が発生した。出穂期は昨年より遅れ、播種時期の違いによる出穂期の差が大きく、地域内でもばらつきが見られた。収量は昨年より多く、品質は良好であったが、収穫期間の降雨などによる品質低下が一部で見られた。</p>
<p>大豆</p>	<p>梅雨明けが早く、8月上旬まで降水量が少なかったため、土壌の過乾燥状態が続いた。これにより、播種が遅れたほ場を中心に生育が遅れ、その後の生育も抑制された。8月上旬のまとまった降雨により生育は進んだものの、降雨の影響で中耕・培土が実施できなかったほ場が多く見られた。これらのほ場では、8月下旬以降の強風により、なびきや倒伏が発生した。ハスモンヨトウの発生は少なかった一方、カメムシ類の発生量は多く、多くのほ場で吸汁害が確認された。収量は昨年並みであるが、品質面ではカメムシ類による被害粒やしわ粒、中粒の割合が多く、紫斑病の発生も一部見られた。</p>

【野菜】

<p>イチゴ</p>	<p>育苗期は一部で炭疽病の発生がみられた。苗の生育は、高温の影響により生育は鈍く充実不足であった。定植は、昨今の秋季高温を鑑み昨年よりも遅らせた作型となった。出荷は11月5日から開始されたが、定植期以降の高温で生育が前進化し、小玉傾向となったことや、作型を遅らせたことから、年内の出荷量は平年を下回った。</p>
<p>ナス</p>	<p>夏秋ナスは3月から定植が始まり、夏季高温による樹勢低下や着果不良が長引いたことから、生産量は昨年と比較して93%となった。冬春ナスは8月下旬から定植が始まり、年内は微小害虫の発生による被害が多かったものの、平年と比較して年内が好天で推移し、生育が順調だったため、年内収量は昨年と比較して104%と多くなった。</p>

トマト	<p>夏秋中玉トマトは、本年産から黄化葉巻病耐病性品種である「TY フルティカ」の導入がすすみ、6月中旬から出荷が開始された。黄化葉巻病や黄変果の発生は昨年より少なかったが、8月以降の高温により着果不良や軟化玉が多く発生し、生産量は昨年と比べて78%となった。</p> <p>冬春トマトは9月中旬～下旬を中心に定植された。定植後の樹勢は例年並みに生育したが、高温により着果不良や裂果が多く発生した。出荷開始は前年より早まり、年内の単収は昨年並みであった。</p>
-----	---

【花き】

施設キク	<p>昨年と同様に夏場が高温で経過したことにより、夏秋キクの一部で生育抑制、奇形花・立ち枯れの発生などが散見された。また、クロゲハナアザミウマの多発により秀品率が低下した。出荷量は部会員減少や他作物への転換などにより減少した。単価は輸入の増加や需要の減少により昨年より低く推移した。</p>
ガーベラ	<p>今年は梅雨明けがはやく、夏場の高温も影響し改植を行った株の生育停滞が見受けられた。出荷量は規模拡大により昨年度よりもやや多かった。単価については、全国的に数量多く、昨年よりも低く推移した。</p>
シンテツポウユリ	<p>8月盆出荷用は、高温により、収穫期がやや前進化した。苗の生育及び定植後の生育はおおむね順調で、3-5輪の発生割合が多くなった。生育後期の異常高温により、生育抑制(草丈不足、上位葉の充実不足)が散見された。</p>

【果樹】

かんきつ	<p>表年であり、有葉花中心に着花量は昨年より多かった。「早味かん」などの極早生品種では、昨年多発した日焼けと裂果が少なかったこともあり、計画を上回る生産量であった。秋期の降雨によって、「青島」等の果実肥大が促進され、大玉傾向で、糖度は平年並みであった。</p>
ブドウ	<p>加温作型、トンネル作型とも生育は平年並みかやや遅れる傾向であったが、結実はほぼ順調であった。梅雨明けが早く、成熟期の高夜温等や一部着果過多により、着色不良や糖度上昇の遅延が散見された。生産量は平年並みだった。</p>
ナシ	<p>平年より遅い開花日となったが、「幸水」の一部の園地では発芽不良がみられた。結実はバラツキがあったものの全体的に良好であった。梅雨明けが早く、高温小雨により「幸水」が小玉傾向であったが、「豊水」以降は肥大良好で食味はシーズンを通して良好であった。</p>
キウイフルーツ	<p>3月末に低温による結果母枝や芽の枯死が発生した。冬期が低温であったため、満開期は前年より4日程度遅かった。開花期の気温が低かったほ場では、受粉不良がみられた。果実は、樹勢の低下等の影響により小玉が多く、糖度も低い傾向であった。</p>

【茶】

<p>一番茶</p>	<p>萌芽期は平年に比べて4日遅い4月8日であり、早生品種を中心に凍霜害の影響で、短期集中型の生産となった。荒茶の取引開始は平年より2日遅い4月19日、生産ピークはなく分散傾向となった。上場量は前年より12.5%程度減少したものの、平均荒茶取引価格は前年対比133.9%の4,256円/kgだった。</p>
<p>二番茶</p>	<p>昨年より5日遅い6月1日から摘採が開始された。摘採時期に降雨が重なり、摘採が計画通り行えず長期化し、生産のピークは降雨の影響により摘採が計画通り行えず分散傾向となった。上場量は昨年より10.3%少なかったが、碾茶の好調や他産地の影響もあり、平均取引価格は前年対比185.3%の2,043円/kgだった。</p>
<p>夏秋期生育</p>	<p>梅雨の期間が19日間と観測史上最も短く、夏芽の生育抑制がみられた。特に、夏整枝が遅れた茶園では、秋芽の充実不足が目立った。10月以降も高温傾向が続き、秋整枝の適期が遅れ、作業が後ろ倒しになった。</p>

6 令和7年度 表彰事業実績

表彰事業名	部門（品目）	賞区分	受賞者名	市町村
令和7年秋の褒章	茶	黄綬褒章	(株)古川農園 古川 明俊	八女市
令和7年度 農事功績者表彰	肉用牛・水稲 ・麦作	緑白綬有功章	實本 太	筑後市
令和7年度 第79回全国茶品評会	玉露	農林水産大臣賞	徳永 慎太郎	八女市 黒木町
令和7年度 福岡県花き品評会	夏秋咲きギク (技術・ほ場の部)	九州農政局長賞	柴田 孝保	八女市
令和7年度 福岡県花き品評会	電照ギク (技術・ほ場の部)	農林水産大臣賞	末石 敏	八女市
令和7年度 福岡県茶共進会	煎茶	農林水産大臣賞	原田茶園 原田 竜二	筑後市
令和7年度 福岡県茶共進会	玉露	農林水産大臣賞	城 昌史	八女市 黒木町
令和7年度 福岡県茶園共進会	煎茶園	農林水産大臣賞	大住 誠	八女市 上陽町
令和7年度 福岡県茶園共進会	玉露園	農林水産大臣賞	倉住 健吾	八女市 星野村
令和7年度 第79回全国茶品評会	玉露	農林水産省 農産局長賞	城 昌史	八女市 黒木町
令和7年度 第79回全国茶品評会	玉露	農林水産省 農産局長賞	宮原 幸子	八女市 星野村
令和6年度全国豆類 経営改善共励会	大豆 (集団の部)	農林水産省 農産局長賞	農事組合法人 いまでら	筑後市
令和7年度 福岡県茶共進会	煎茶	九州農政局長賞	原田茶園 原田 梨恵子	筑後市
令和7年度 福岡県茶共進会	玉露	九州農政局長賞	田島 隆光	八女市 黒木町
令和7年度 福岡県茶園共進会	煎茶園	九州農政局長賞	農事組合法人 彩香 桐明 和真	八女市
令和7年度 福岡県茶園共進会	玉露園	九州農政局長賞	豊田 邦明	八女市 黒木町
令和6年度福岡県 大豆作経営改善共進会	大豆 (集団の部)	福岡県知事賞	農事組合法人 いまでら	筑後市
令和7年度 福岡県茶共進会	煎茶	福岡県知事賞	近藤園 近藤 竜成	筑後市
令和7年度 福岡県茶共進会	玉露	福岡県知事賞	栗原 昭夫	八女市 矢部村
令和7年度 福岡県茶園共進会	幼木園	福岡県知事賞	カネ永製茶 永松 宏章	筑後市
令和7年度 福岡県麦作共励会	麦類 (集団の部)	福岡県知事賞	農事組合法人 つねもち	筑後市
令和7年度 全国麦作共励会	麦類 (集団の部)	全国農業協同組合 経営管理委員会 会長賞	農事組合法人 つねもち	筑後市

7 令和7年度 実証ほ一覧

係名	品目名	課題及び内容	
水田農業係	水 稲	水稲奨励品種決定にかかる現地実証及び評価	
	大 豆	輪作体系における水田土壌の地力維持が可能な施肥体系の検討	
		新規銘柄肥料「マイティーソイ」レコ」の大豆への適応性の検討	
野菜係	トマト	緩効性肥料「硫酸カリコート」の効果検証	
		基肥一発肥料「促成トマト一発肥料」を用いた追肥作業省力化の検討	
		夏秋トマトにおいて遮熱 P0 フィルム「炎夏果守」を用いた高温対策の検討	
	ナ ス	栽培終了後キルパー灌水処理によるナスフザリウム立ち枯れ病蔓延防止の検討	
		作業の省力化を狙った垣根仕立ての検討	
		遮光資材（ら～くらくスーパーホワイトライト）を用いた夏季高温時の樹勢維持の検討	
	イチゴ	遮光資材（ら～くらくスーパーホワイトライト）を用いた育苗期における高温対策の検証	
		遮光資材（清冷）を用いた年内の大玉対策の検証	
		生物分解性肥料「プロミック」を用いた育苗時期、施肥省力化の検討	
		遮光資材（ら～くらくスーパーホワイトライト）を用いた春先における品質向上対策の検証	
		空中ポットレストレーを用いた育苗期における花芽分化促進の検証	
	花き係	輪ギク	キク栽培における夏期の高温対策のための遮光資材の実証
		スプレーギク	夏場のシェードを用いたフォーメーション乱れ対策の確立
ガーベラ		スマート CO2 施用技術の実証	
果樹係	カンキツ	S. マルチによる果実品質向上効果の検討	
	キウイフルーツ	実用的なブロー受粉の検討及び施肥体系の検討	
	ブドウ	「シャインマスカット」及び優良系統の苗木育成	
	ナシ	花粉の確保方法の検討	
特産係	茶	パビンコフロアブルの新梢枯死症に対する防除効果の検証	

8 令和7年度 現地活動情報

(県ホームページ掲載)

No.	発信日	タイトル	係名
1	4/22	新茶シーズン目前！若手生産者らが手もみ製茶技術を競う	特産係
2	5/15	八女農業高校生が伝統本玉露の手摘みに挑戦	特産係
3	5/23	「八女伝統本玉露」の新たな取り組み	特産係
4	6/3	今年の至高の八女茶が決まる	特産係
5	6/10	JAふくおか八女いちご部会青年部全体研修会の開催	野菜係
6	6/27	イチゴ栽培管理基礎セミナーを開催	野菜係
7	6/27	八女地域就農支援センター第11期生研修はじまる	地域係
8	6/30	JAふくおか八女ぶどう部会現地研修会の開催	果樹係
9	7/4	農業にチャレンジ！「就農相談会」	地域係
10	7/7	令和7年度経営基礎講座を開講	地域係
11	7/7	農事組合法人 いまでらが「農林水産省農産局長賞」を受賞	水田農業係
12	7/7	大豆の高品質安定生産を目指して	水田農業係
13	7/7	八女地域女性リーダー育成研修会を開催	地域係
14	7/24	「恵つくし」の高品質・安定生産に向けて	水田農業係
15	7/31	八女地域経営改善検討会を開催	地域係
16	8/7	八女地域新規就農対策会議 簿記研修開催	地域係
17	8/18	八女地域女性農村アドバイザー 先進事例研修開催	地域係
18	8/18	JAふくおか八女就農支援センター卒業生のフォローアップ	地域係
19	8/19	研修生の新規就農へステップアップ！	地域係
20	9/5	八女茶産地でASIAGAP団体認証の取り組みが始まりました	特産係

No.	発信日	タイトル	係名
21	9/9	第2回経営基礎講座を開催	地域係
22	9/26	八女地域農業経営アカデミーフォローアップセミナーを開催	地域係
23	9/29	八女地域における若手花き生産者の栽培力強化を目指し	花き係
24	9/30	第3回経営基礎講座を開催	地域係
25	10/9	八女地域農業経営アカデミーフォローアップセミナーを開催	地域係
26	10/10	八女地区青年農業者の交流勉強会を開催	花き係
27	10/28	八女地域の新規就農者の確保に向けて	地域係
28	11/5	麦類播種前講習会を開催	水田農業係
29	11/5	令和7年度八女茶手もみ研修会を開催しました	特産係
30	11/19	八女地域農業経営アカデミーフォローアップセミナーを開催	地域係
31	12/8	八女茶の茶園管理技術を競う	特産係
32	12/18	令和7年度こめこめ研修会を開催	水田農業係
33	12/24	八女地区4Hクラブ意見実績発表大会を開催	野菜係

福岡県行政資料			
分類記号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703524	07	0001



作成者 福岡県筑後農林事務所

八女普及指導センター

所在地 〒834-0005 福岡県八女市大島 360

電話番号 (0943)23-3106

FAX番号 (0943)23-3107

eメール yame-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

センターの現地活動情報を掲載しています

URL <https://www.pref.fukuoka.lg.jp>

